

日記の記載によって遷延化した夜間せん妄が軽減した一例

正田 奈穂 1) 南 由加利 1)

1) 医療法人 聖志会 渡辺病院

【目的】 認知症病棟には、遷延化した夜間せん妄により不隠・不眠を訴える患者がいる。今回、日記を導入し生活リズムを整え、夜間せん妄、BPSD が軽減した事例を報告する。

【背景】 A 氏 老年期認知症 女性 80 歳台 入院時 (200X 年)N-ADL 42/50 点 HDS-R 7/30 点 CDR 2 DRS 23/30 点 DBD 21/0 点 カテゴリー 14 /32 点  
3 年前より幻聴・妄想が出現。5 ヶ月前に熱傷で救急搬送され救急病院に入院。BPSD が強く熱傷治療困難となり当院に転院となる。入院後、熱傷は改善。夜間せん妄で BPSD が認められた。

【方法】 オリジナルシートを作成し入院前の情報収集をする。実施期間:200X+1 年 1 月 29 日～現在継続中。拒否しない限り毎日、日記を書くように働きかけ DRS、DBD、補足的カテゴリーで日記導入前後を比較し、生活状態を評価する。

【倫理的配慮】 当院倫理委員会の承諾を得、家族に同意を得た。

【結果】 現在 N-ADL 42 点。HDS-R 6 点。CDR 2  
当初記載に 20 分要したが、個室対応にて 10 分程度で記載できるようになった。

導入後評価: DRS 23⇒1 点 DBD 21⇒14 点 カテゴリー 14⇒23 点となり、BPSD は改善した。

【考察】 当初、ノートを使用した以前のページを読んでしまい、混乱して書けなかった。1 枚の紙に変更したことで、問題なくできた。さらに個室にすると集中でき、記載時間が短縮できた。日記を書くことで、感情の整理ができ、伝える喜びが湧き、寂しさや不安が軽減され、感情失禁がおさまったと考えられる。また睡眠を含めた生活リズムが整い、夜間せん妄が軽減したと思われる。

【結論】 日記は遷延化した夜間せん妄のケア方法に有効である。